

第2学年1組 英語科 学習指導案

平成30年5月31日

授業者:

指導教諭:

1 単元名 Program 2 A Trip To Finland

2 単元設定の理由

(1)「教材観」

Lesson 2においては、フィンランドに旅行をする予定のYukiと彼女の友人Mikeの会話及びメールを本文として、その中で未来表現“will(意思表示も含む)”や“be going to”の習得を目標としている。また、本文についてはどのパートにおいても比較的短めに済まされているため、テンプレートとして暗記すればその後のアウトプット活動につなげることが可能と思われる。

(2)「生徒観」

対象となる2-1には主として真面目で挙手発表等も積極的にする生徒が常に一定数存在する一方で、真面目ではあるが挙手発表などには控えめな生徒もある程度いる。しかしそういった控えめな生徒の中にも問いの答えがわかっているが発表する勇気を持ちきれないだけというような子もいる。また、授業内容自体が面白く明るい雰囲気で行われるものならペアワークなども含めて積極的に活動に取り組むが、前に出たり立ち上がったたりして代表としての目立つ実演等になると恥ずかしがって消極的になりがちである。

(3)「指導観」

日本語では「私は明日テニスをします」のように「つもり」や「予定」という表現を用いずとも未来時制を表現することができる。それゆえに多くの日本人が先のような和文テンプレートを英訳する際に“I play tennis tomorrow.”というように未来表現“will”や“be going to”などを忘れがちである。この現状を踏まえて本単元では英語と日本語の違いを意識しながら未来表現を習得することを目指す。

3 単元の目標

- ① 未来表現の習得
- ② 各パートの本文の内容を理解
- ③ 各パートの本文を暗記
- ④ 各パートの本文をテンプレートに自分の力で新しい文を作ること

4 指導計画(全8時間)

- 第1次 Part 1 未来表現“be going to”とそれを用いた文章・・・ 2時間
- 第2次 Part 2 未来表現“be going to”及び“will”とそれらを用いた文章・・・ 3時間
- 第3次 Part 3 未来表現“be going to”及び“will”とそれらを用いた文章・・・ 2時間
- 第4次 Program 2の全パートを踏まえたまとめ・・・ 1時間

5 本時の目標(第2次 2時)

- ① 未来表現 will の疑問文及び否定文の作り方を習得
- ② 教科書本文の内容を理解
- ③ 教科書本文を文法構造や文の意味などに着目した上で暗記・暗唱

6 準備物

教師：教科書・ワークシート3種・ラジカセ・CD
生徒：教科書・ノート(ワークシートはすべて当日授業内で配布される)

7 学習過程

段階	学習活動	指導の留意点・支援の手立て	評価
導入 15分 ↓ 5分 + 10分	挨拶等簡単な英会話 ・What are you going to do this weekend? ⇨ Do you have any plans for~? など(5分) 文法 ・willの疑問文及び否定文の作り方(10分)	・教師は生徒に会話の手引きやお題を提示 ・文法については説明を簡単に済ませ、口頭での簡単な練習問題を行い、宿題としてwritingをさせる	方法 机間巡視及び指導 基準 積極的な授業参加
展開 34分 ↓ 15分 + 19分	深読み True or False ...教科書本文の内容についての正誤問題 ・本文音源を聴いたり本文を読んだりしながらワークシート記入(8分) ・生徒に和訳も答えさせつつ解説(7分) 本文音読 ・アクセント位置に注意しつつ本文音読 ・英語順和訳を見ながら英訳音読の練習 ・時間があれば完全和訳を見ながら英訳音読の練習	・深読み True or False ではグループディスカッション形式で生徒同士に意見の共有をさせる ・教師はディスカッションを巡視 ・生徒が盛り上がりすぎて收拾がつかないというようにならないよう注意 ・音読では英語順和訳音読に最も時間をかけることとする	方法 机間巡視及び指導 基準 積極的な授業参加
まとめ 1分	宿題など次の授業の計画などの告知	言い忘れのないよう注意	方法 生徒観察 基準 教師の話の聞いているかどうか